

松本清張研究会 第31回 研究発表会

平成26年12月6日(土)午後2時

日本女子大学

本来、私は平安時代の和歌、歌壇が専門で

い
ま
す。

鳥
葬

が、その後、万葉をやり、そして、今度は大麻を…」(笑)お分かりですか。最近は『大麻をやっている』んですね、と。(笑)で、私は「うん、最近は『大麻』なんだよ」と答えたたら、「いかがですか?」と聞かれ、どう答えていいものか詰まってしまった。(笑)これから話も、私が『大麻をやった』その結果の幻想的な話ということをございます。

日本古代に鳥葬を求めた清張の着眼点は鋭い。それで、私はその繼承を試みました。鳥葬とは、死骸を鳥に食べさせて処分する葬儀方法です。ゾロアスター教からチベット仏教へ。そして、驚くべきことに現在もチベットでは行われています。

私が【大麻をやつた】その結果の幻想的な話
ということです。清張は日本古代を動かした裏面の力として、ペルシアのゾロアスター教の渡来を確信し、「清張通史」「火の路」「眩人」は「世界から日本を見る」清張史観から書かれた。最古級のゾロアスター教渡来の影を、「一つは「鳥葬」に見て、一つは「大麻」に見ていた。私の話は、清張古代史の根底に潜んでいるものを引きつぱり出して、お見せすることになると思

鷦鷯を以て哭女とし、鶴を以て造綿者とす。
鳥を以て宍人者とす。すべて衆の鳥を以て
事に任ず」(『日本書紀』)

これだけの鳥が集まつて葬儀を行つたのです。どうですかね。「あつ、鳥葬だ」と思うのは、自然ではありませんか。

講師
山口
博

清張古代史学からのスタート

○富山大学
聖徳大学
名誉教授



としてアメワカヒコを大使として敵国出雲に派遣します。ところが、出雲大使は出雲国王の娘に籠絡されて、和平工作どころではな

私は多数意見には疑問を持つています。ヤマトタケルとアメワカヒコは事情が全く別である。なぜなれば、ヤマトタケルの場合

見です。それを唱えたのは、室町時代の神道に属する研究者二名だけだった。誰もそれを引き継がなかつた。多数意見は清張説を認めず、アメワカヒコの靈魂が鳥に化したと説明するのです。ヤマトタケルという英雄が、死んで白鳥になつたという説話が残つてますよね。同じ解釈なのです。

夏秋の到来で消え去る神話がある。農耕が終る頃に死ぬという話です。また、アメリカンヒコそつくりの友人が出現した。友人はア

きて死んだときには、アメワカヒコが横たわっていた胡牀です。「胡」は西の方でしょ。胡牀とは西方の家具、クリネ、長椅子なんですね。これらを合わせてみると、この話が西方から伝わってきた話だと分かるんです。さらに、アメワカヒコは農耕が終了した新嘗のときに死んでいる。西の方の伝説に、穀物神が

く「祖国に反逆」した。この辺りから段々と、清張の小説に近づいていきます。そこで、高天原から、「女諜報員」天探女が派遣される。アメワカヒコ、サグメを射殺。矢はサグメを貫いて高天原に達しました。次に「狙撃」です。高天原側はアメワカヒコを狙い、矢を投げ反した。新嘗の行事が終わり、胡牀に臥しているアメワカヒコに当たり死亡した。そして、「葬儀」です。喪屋に集まつた多くの鳥たち。その中に、「哭女」が登場している。これは單に亡骸を放つておいたの



には非常にきれいな白鳥一羽が飛んでいくんです。それに対しても、アメリカヒコはどうでした？雀がいる、鳥がいる、鳶がいるなど、たくさんいる。もしくは魂だとしますと、アメリカヒコはいつたい俺の靈魂はどれだろうと困っちゃいますよね。(笑)やはり清張が言うとおり、鳥葬と考えるのが正しいと思います。



ソグド壁画

ジスキタカヒコネという神様で、「スキ」という言葉が入っているので農業神だらうと言われている。そうすると、西方には穀物神が夏秋には枯れて、翌春に蘇るという神話がある。アメワカヒコの話において、その蘇りの話の代わりに出てきたのが、そつくりさんの登場です。アメワカヒコの亡骸は、喪屋を蹴飛ばされ四散してしまった。西方の神話の若者の亡骸も散骨されるのです。

こう見てみると、メソポタミアの若き穀物神であるタンムズ（シリアやギリシアではアドニスという名前で登場する神様）、あるいは、ソグド、イランの北東ウズベキスタンの若き穀物神、シャウーシュが採り入れが済むと死んで、翌年の春、蘇るというタイプと、全く同じタイプの神話だと分つてきますね。

シャウーシュ伝説は、八世紀ソグド人の壁画に残っています。ソグド人は中国・日本人にも渡来していた国際貿易商人です。中国人や高句麗人がソグドを訪問している。つまり、古代に非常に活躍した民族の話にこれが出てくる。さらにこの伝説は、隋の時代の『西蕃紀』にも書かれていて、中国までは確實に来ている。そして、いろんな方法で日本に渡つてきて、アメワカヒコの神話に変貌して伝わってきた。ソグドの石刻画像などを見ると、鳥葬が行われたことは間違いない。すると、このシャウーシュ伝説とともに鳥

葬が東へ東へ渡つてきて日本に来た。その名残が『古事記』に残っていた、と考えています。もう一つは、海津信六という在野の学者の手紙本にあつたとは言つていません。『古事記』の神話をもつてきて鳥葬があつたという清張の指摘は間違つていなかつたんです。

ただ、私は清張とは違つて、鳥葬が古代日本にあつたとは言つていません。『古事記』にだけこれが留められ、清張はそれを指摘した。私はそれを手がかりにして、非常に大きな結論に達したんです。つまり、『記紀』の神話の中に、西方の伝説神話が姿を変えて入つてることを証明したわけなんです。

大 麻

古代史の中に大麻を問うという、誰もが考えたとしても見なかつた新視点を清張は構築しました。これは素晴らしいですよね。では、なぜ大麻が必要なのか。清張は、飛鳥奈良時代を大きく動かした闇の力に、麻薬を確信した。麻薬をキーとして二つの時代の謎に挑戦した。単に小説の世界だけではなくて、一つの史観として捉えていたから、小説『火の路』『眩人』と歴史書『清張通史6 寧楽』を公にしたのです。

『火の路』の全体の構造は交錯する二つのミステリーからできている。一つは現代のミステリー、一つは古代のミステリー。清張は古代のミステリーの謎を解く方に重きを置いていた。では、そのミステリーは何であったか。齊明天帝は「狂心の渠」から深い堀を造つた。そして巨石で石垣を造り、石の山丘を築いた。そして、亀石だと、猿石とか、たくさんの石造物を造つた。天宮という楼を建設した。崩御のとき、近くの山の上に大きな笠を被つた鬼がいて、葬儀の様子を眺めていた。「衆皆嗟怪ぶ」という奇妙な天皇だったんです。では、その謎を解くためのどんな手法をとつたか。挿入された論文形式です。一つは、高須通子さんの論文。二つ

の論文合わせて、新聞掲載（全477回）で80回分です。もう一つは、海津信六という在野の学者の手紙3本。つまり、これを合計したものが実は松本清張自身の論文なんですね。

次にその論文の結論です。飛鳥の都にゾロアスター教（中国では祆教）の司祭者が渡来した。齊明天帝はゾロアスター教に魅せられ、ハッシーシュ系統の麻薬を愛用、イランに多い石造文化を導入し、拝火壇（益田岩船）、石造物（猿石、龟石など）、そして麻薬製造器として酒船石などを造つたのか、と高須論文を通じて清張は主張しました。

そして、全体を通じてのキーが麻薬なんですね。二つ出でます。一つは大麻、マリファナ。もう一つがハオマです。小説の始めに大麻に関する話が二つ置かれています。ところが、途中から唐突に麻薬ハオマが登場して、ややこしくなるんです。

「幻人が使う薬草がハオマだ」という記述にも彼女は惹かれた。もちろんこれは中枢神経を麻痺させて幻覚を起こすインド大麻のことである」と、『火の路』『西教の火』に書いてあります。これで、私の頭も麻痺してしまいましたねえ。インド大麻はマリファナでしょ、ハオマは全然違うものなのに、どうして同じものだと清張は述べたのか。清張の理解するハオマは、紀元前からの麻薬植物、これはいいですね。ザクロの一種のハオマといふ樹からハオマ酒を造り、ゾロアスター教儀式に用いる。効能はアヘンと同じように中枢神経を興奮させると、『火の回路』の「創作ノート」に清張自身が書いているんです。

すると、清張はなぜハオマを持ち出したのか。理由の一つは、日本の麻には幻覚性がないということです。もう一つは、大麻、マリファナは、別段お酒にする必要はないんです。ところが、清張の頭にはアスカの酒船石があり、その中に材料を入れてこねて、麻薬のお酒を造つたに違いないと考えた。しかし、大麻はお酒にならなくて、その中に材料を入れてこねて、麻薬のお酒を造つたに違ないから、別なものを持ってこなくてはならない。そこで、考えついたのがハオマ酒だつたんです。

『眩人』は、壮大な歴史小説です。奈良時代最盛期の天平時代から奈良時代末期に至る半世紀の歴史が展開されています。

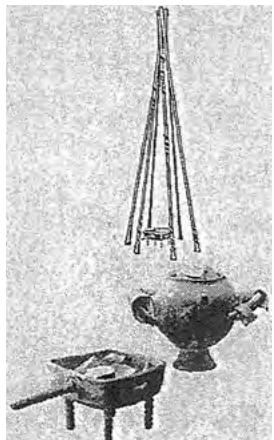
まず後宮の女たちが登場いたします。光明子。宮子は首皇子（聖武）を出産後、心的障害を引きおこした。宮子の妹光明皇后は聖武天皇を実質的に動かす存在であつた。主人公の玄昉は渡唐僧だが、長安にいる間に、本来の仏教徒としての修行よりも則天武后の治政などをかなり勉強してきました。聖武天皇を実質的に動かす存在であつた。主人公の玄昉は渡唐僧だが、長安にいる間に、本来の仏教徒としての修行よりも則天武后の治政などをかなり勉強してきました。聖武天皇にも薬を呑ませノイローゼにし、栄光を掴むが、一転して破滅した男の物語です。長安のゾロアスター教祠で液体を飲み、幻想的体験をした玄昉は、幻術に長け麻薬の知識を持つソグド人の弟子を伴つて、日本に帰国します。この弟子が大麻を持ち込んだわけです。

持参した大麻は使うと当然、少なくなる。それで、日本の国内に大麻がないかと探し始めた。アスカに、麻が生えていた。しかし、麻の成分が弱い。幻覚性が起きない。また、アスカで先人渡来者の造つた船形の石造物



船石

(酒船石)を見て、ソグド人の弟子は薬酒製造器だと思います。それで大変苦労しまして、秘薬を作った。幻覚性の弱いアスカ産大麻にハオマをプラスする。酒船石の表面の穴の中に、片一方にはマリファナを入れ、片つぽの方にはハオマを入れて、混合して新しい秘薬を作ったと考えているみたいですね。非常によく考えたものですね。全体が大麻によつて貫かれていています。王朝版『神々の乱』です。



大麻吸飲用具



シャーマン・ミイラ

日本古代の大麻

清張さんが一番苦労したのは、日本の古代に幻覚性を起こす大麻が本当になかったのかどうか、これなんですね。『火の路』の高須通子は、日本には幻覚性大麻はないといつ。『眩人』の弟子はアスカでみつけた大麻の麻薬成分は弱いといつ。古代日本の幻覚性大麻の存在の可能性を探るうと、私が眼を向けていたのは、考古学の世界での遺物資料です。

邪馬台国候補地と言わわれている纏向遺跡、その神殿のそばにあります坑から、535粒という大量の麻の種が出土しました。ものすごい数です。一緒に出てきたのが桃の種。中国における延命長寿とかの関係で使つたんだろうと、マスクも大々的に報じました。しかし、麻の種の方には、マスクも誰も眼を付けていない。しかし、場所が神殿で、同じ所ですから、両方とも同じ

すると、シャーマンが、もしかしたら卑弥呼が神憑りするときの材料ではなかつたか。私がそのことをこの本(『大麻と古代日本の神々』)に書きましたら、その後、NHKの歴史ヒストリアでこの纏向遺跡を取り上げたとき、卑弥呼は麻の種を吸引して幻覚症状になつて神憑りになつたと放送しました。

次に、文字資料ですが、天岩戸神事で、祭祀を行つた忌部氏という一族がおります。その祖先神が御祭りを行うために麻の種を播くんですね。すると、一夜にして種から芽を出し、成長して繁茂した。(『古語拾遺』)これは明らかに大麻の幻覚性を表しています。

日本の「アサ」という言葉は中央アジアからやつてきた言葉らしい。とすると、麻は外来植物で中央アジアから渡来した可能性がある。そこで、アジア大陸に眼を向けると、中国黒龍江省の西暦前4~後2世紀の神殿のあとから、大量の炭化した麻の種が出てきています。燃して、その煙を吸つたんですね。また、トルファンの墳墓から麻の種子を持ったコーカサス人のシャーマン・ミイラが出土しました。騎馬遊牧民族スキタイの遺跡からは、大麻吸引具が出てきます。

こう見えて、古代において、西のほうから始まつて点点と東の方へ、シベリヤの辺りまで大麻吸引の習慣が広まつていたことは確実なんですね。さらに、先ほどの忌部氏はどこから来たかというと、東北アジア

から渡來し、幻覚性の大麻を持つてきただ可能 性が非常に強いわけです。つまり、日本の古代において、幻覚性の大麻が使用された可能性はかなり濃厚なんです。

私がもしも清張さんと会つてお話をできたら、『火の路』と『眩人』について提言申し上げたいことがいくつあります。

一つ目は、ゾロアスター教渡来より遙か以前に、幻覚性大麻は日本に渡つてきて使用していた可能性が考えられることです。卑弥呼や纏向遺跡の時代は三世紀ですかね。

ただ、ここで注をつけておきます。確かに纏向遺跡から麻の種が出たことは確かで、御祭りに使つたとすると、幻覚性を持つて神憑りになつたのだろうと、これは言えます。しかし、仮に清張が考へ、高須通子さんが言つたように、日本の古代の大麻には幻覚性がなかつたといつことが確実になると、纏向遺跡の種は何だつたのか。私は、確かに幻覚性は纏向の時代にも失せて無かつたかもしないけれども、神々とコンタクトを取りエクスターに入るために、かつては大麻を使つていたんだというその意識の流れ(伝統)がずう一つと続いていたために、御祭りに供えたんではないか、と考えます。現代の大嘗祭においても、忌部氏の子孫が種を播き育て紡ぎ織つた麻布を、新しい天皇の籠る御殿に供える。麻には不思議な力がある、といふ伝統は今も生きているのです。

二つ目は、関連する考古学資料はみんな、実は清張さんが亡くなつてから後の発掘だということです。清張没(一九九二年八月)後が多い。だから、清張さんが知らないかったのは仕方がない。黒龍江省の炭化した大麻は、一九九七年に発掘されたんです。トルファンのシャーマン・ミイラは、

から渡來し、幻覚性の大麻を持つてきただ可能 性が非常に強いわけです。つまり、日本の古代において、幻覚性の大麻が使用された可能性はかなり濃厚なんです。

『火の路』『眩人』への提言

酒船石遺跡については、周りから齊明帝が造つたと言われる石垣の跡がついに発見されました。それが、一九九二年五月なんですね。清張さんは四月二十日に倒れちゃつた。知つてたんでしょうかねえ、新聞か何かで。そして、高い崖の上にある酒船石の、ずうっと下がつた所から、亀形や方形の石造物が発見されました。一〇〇〇年。並べて見ますと、そこに水を流して、御祭りを行つたのではないかといつ推論に、大体落ちついてきた。それで、崖の上の酒船石もその一環だろうと、現在は落ちつきつあるのですが、位置関係から言いますと、片つ方は崖の上、片つ方は崖の下で、距離はかなり離れています。さらに、亀形の石や方形の石と、山の上の酒船石とがどうつながるのか。酒船石の穴はこはどういうふうに使つたのか。これらの謎は、依然として解明されていないのです。清張の説も全くダメなわけではありません。生きていると思うんですが、私自身もその答えは持つてはおりません。もし清張説が確実に誤りだとなると、『眩人』は成立しなくなつてしまつ。非常に大きな問題です。

松本清張の社会派推理小説と自殺・失踪
——「点と線」「ゼロの焦点」「波の塔」を手掛かりに——

研究発表

松本清張の社会派推理小説と自殺・失踪
——「点と線」「ゼロの焦点」「波の塔」を手掛かりに——

発表者 南富鎮

○ 静岡大学 教授

※この研究発表の内容は、当館発行の研究誌『松本清張研究』第十六号に収録されています。

特別企画展

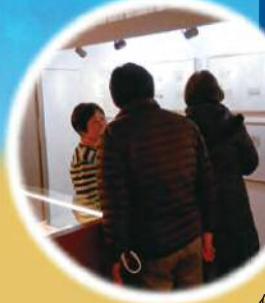
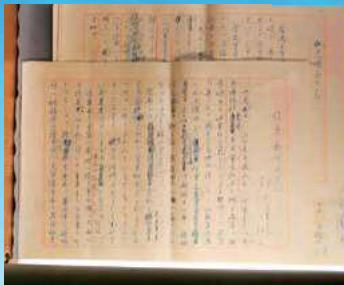
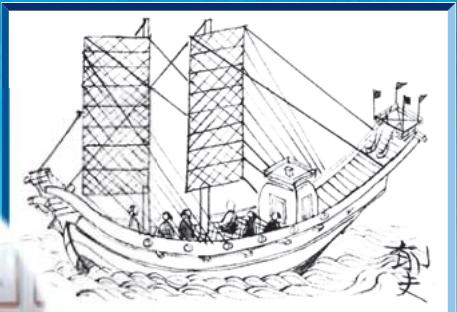
眩人

げんじん

松本清張と東西文化交流

開催期間 平成27年1月10日(土)~5月31日(日)
場 所 松本清張記念館地階 企画展示室
入 場 料 一 般 500円 中高生 300円
小 学 生 200円

好評につき
期間延長



清張直筆の「研究ノート」

平山郁夫《眩人・挿画》原画展
「眩人」の挿画は、平山郁夫画伯が描くことに決まっていた。自らデザイナーであり美術に造詣の深い清張は、シルクロードなど東西文化交流には共通の関心をよせる平山画伯の挿画が、自作を飾ることに喜びを感じ、特別な想い入れをもって「眩人」連載前に平山画伯と対談をしている。



清張コレクション

松本清張は「火の路」執筆中に、<偶然の機縁>で骨董屋からガンドーラ仏を数個手に入れた。<インド仏教と西方宗教である太陽(ミトラ)信仰との混血>で、ガンドーラ仏にはその混血が<具体的に>見られて<興味深い>と感じ購入したようである。



ようこそ!

唐都長安と天平の奈良を背景に、大規模な歴史と、留学僧玄昉や光明皇后などの人物群像を、壮大なスケールで描く歴史小説『眩人』の世界へ。



松本清張フィルモグラフィ

第一展示室の右奥は『松本清張 フィルモグラフィ』のコーナーで、映画パンフレットやシナリオなど展示している。清張の映画化作品は、生誕百年にリメイクされた『ゼロの焦点』をふくめて三十六本。壁のモニターでそのうち十八本のダイジェスト映像を常時上映している。白黒のタイトル（山藤章二）が画面に浮かび出ると、その一画は『清張映画館』様変わりする。

——「さあ、張込みだ！」大写し

の刑事（大木実）の両目にかぶせて『張込み』。（克明な人間描写とみごとなサスペンスの名作。愛する幼馴染をしたつてホンシはついに現れた。犯人を目前にした刑事の息詰まる緊張感）

普通の主婦を演じる高峰秀子が清楚で美しい。橋本忍脚本の野村芳太郎監督作品で『キネマ旬報』八位、清張もベストスリーホカは、『砂の器』と『証言』に挙げている。（約二分）

——夜の「かみくまもと」駅のは激しい怒りに変った。兄の無実を信じる桐子は依頼を退けた弁護士に復讐を誓つた。愛人を助けてくれと頼む弁護士に、桐子は「不公平ですわ。無実を証明していいただくのはけつこうです。でも、兄はもう死んでます。けれど、径子さんは生きてらっしゃるでしょ」とナ

——「さあ、張込みだ！」大写しの刑事（大木実）の両目にかぶせて『張込み』。（克明な人間描写とみごとなサスペンスの名作。愛する幼馴染をしたつてホンシはついに現れた。犯人を目前にした刑事の息詰まる緊張感）普通の主婦を演じる高峰秀子が清楚で美しい。橋本忍脚本の野村芳太郎監督作品で『キネマ旬報』八位、清張もベストスリーホカは、『砂の器』と『証言』に挙げている。（約二分）

——海辺で、風にくずれる『砂の器』。（宿命とは悲しさなのか強さなのか。日本列島を貫く親子の旅を通じて、人間の宿命を流麗なコンチエルトにのせて描いた感動の名作）亀嵩駅ホームでの、別れを宿命づけられた父と子の、感動の抱擁シーン。美しい日本の自然の中で、加藤嘉の演技は圧巻である。『キネマ旬報』二位。（約三分）

『清張映画の第一作（一九五七）

『顔』、荒れる日本海に臨む断崖の場面がミステリーの定番となつた『ゼロの焦点』と『無宿人別張』もなつかしい映像を楽しめるが、あいだにタイトルとキャッチコピーだけのものが十二本はさまれている。——上映時間は合計でわずか十八分だが、きっと本編も観たくなる。そのときは、地階のミュージアムショップでDVD（販売）をどうぞ。

当館では特別に、『疑惑』のメイキング映像を上映。球磨子（桃井かおり）の演技を観て、監督と話す清張。貴重な清張のインタビューも聞くことができ。最後は、ドラマの『天城越え』（一九七八、NHK）。清張自身がお遍路姿で出演し、少年（鶴見辰吾）に「祈つてあげたよ」と声をかける。そして、チリン、チリン、チリンと持鈴を鳴らしながら、去つていく——FIN

（学芸担当主任 中川里志）

を歩き去る。山口百恵主演でもリメイクされ、堀北真希主演のテレビドラマは記憶に新しい。（約一分）

「眩人」——玄昉という人③奈良の寺々

作品の舞台を訪ねて



「眩人」——玄昉という人③奈良の寺々

と貧相なこの小男が長安に足かけ二十年

間も踏みどまり、「経論五千余巻及び諸

仏像」を将来したエネルギーをどこに持

ち合せて、いたかと、この玄昉に対しても不思議な気がする。

（文藝春秋『松本清張全集51』「眩人」より）

奈良の海龍王寺は、玄昉が内道場（※1）として仏教の教えを説いた場所という。彼が唐で得た知識は（日本の仏教に大きな影響を与える）、（仏教で国を治める「鎮護国家」の礎を築いた）とともに、「（写經事業）の発展にも功績を残した」とされる（※2）。

（中略）海竜王寺へ行く。一名「隅寺」という。

（中略）「隅寺」は、皇后宮の東隅に僧玄昉が造らせた内道場（宮中の寺）の址か。（中略）

玄昉が宮子皇太夫人をひとたび看護する

や、彼女のさしもの重患たりし幽憂はたちまち快癒した。（中略）彼女と玄昉の間は、

が、きっと本編も観たくなる。

そのときは、地階のミュージアムショップでDVD（販売）をどうぞ。

清張が抱いた不思議な気持ちを裏付けるかのように、玄昉像として伝わるこの像は鎌倉時代の作とされ、もとは別僧の像であった可能性が高いと考えられている（※3）。

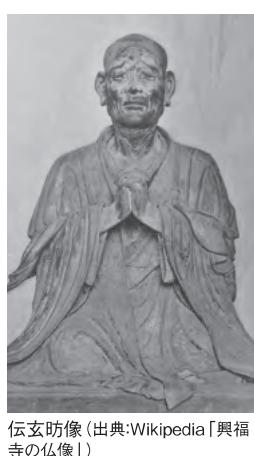
二部構成の「眩人」、一部は唐で暮す玄昉の傍後に視点を据えて書き、二部は玄昉の帰国に従い渡来した波斯（ペルシア）人（李密翳）（※4）の回想記として、彼の眼とおして書く。すなわち帰国後の榮達と凋落は間接的に語られ、玄昉本人が何を思い、どう考えていたかはわからない。が、彼の果した役割を清張は追求する。次号へつづく。



海龍王寺門前
（文藝春秋
『松本清張全集65』『清張日記』昭和五六年
五月七日記事より）



興福寺南円堂



伝玄昉像（出典：Wikipedia「興福寺の仏像」）

（※1）宮中の仏堂であり皇帝家のために祈願を修むるともに、天皇皇后をはじめとする全ての宮人が名僧知識について講説を聴くところ（海龍王寺公式ホームページより）。

（※2）（内は）海龍王寺公式ホームページより。

（※3）（もうと）知りたい興福寺の仏たち（金子啓明著）（二〇〇九年 東京美術）

（※4）（続日本紀）に記載のある人名。作中は別名で登場するが、物語の進行とともに清張の意図でこの名へ改名する。

（加地尚子）

研究誌『松本清張研究』第十六号発刊

清張と新聞

特別対談 戦後文学に現われた松本清張という現象
五木寛之 山田有策

論文 松本清張と新聞小説 十重田裕一

清張小説のなかの新聞記者と新聞社 新聞小説第一作 —松本清張「野盗伝奇」論 綾目広治
山本幸正

「砂の器」考 —社会派推理小説のレトリック、もしくは新聞小説、その読みの作法について— 中丸宣明

少しずつ、グローバルな霧と闇へ／から —『霧の会議』といつ企て 高橋敏夫

松本清張『火の路』とペルシア文化の飛鳥東漸 久米雅雄

松本清張『火の路』とペルシア文化の飛鳥東漸 久米雅雄

松本清張作品と私 山口恵以子 南富鎮

松本清張とヴェレミーナの私 チハーコヴァーヴラスター

松本清張の昭和史 半藤一利

投稿 「両像・森鷗外」私考 —清張の採集法と鷗外史伝の叙法の接点を中心に— 多田康廣

記念館研究ノート 松本清張と水村美苗の「嵐が丘」体験 柳原暁子

記念館だより

編集後記



友の会活動報告

● 清張サロン

清張サロンは毎回、清張作品や清張に関する話題をテーマに、講師を招いてのお話や参加者との意見交換・交流を目的に年8回開催しています。昨年11月から2月にかけては、下記のとおり3回開催しました。第3回は、友の会と記念館の共催とし、会員のほか、一般市民にも参加を呼びかけて行いました。いずれも参加者の皆様により深く清張作品に触れて楽しんでいただくことができ、充実したサロンとなりました。

第3回 11月29日(土) 14:00~16:00 参加者61名

- 会場 記念館 企画展示室
- 特別講演会 テーマ
「松本清張の古代史学説小説 —『火の路』『眩人』—」
- 講師 綾目広治氏(ノートルダム清心女子大学教授)

第4回 1月29日(木) 14:00~16:00 参加者26名

- 会場 記念館 会議室
- テーマ 特別企画展
「『眩人』松本清張と東西文化交流 平山郁夫原画+ガンダーラ仏」
- 講師 中川里志氏(記念館・学芸担当主任)

第5回 2月26日(木) 14:00~16:00 参加者33名

- 会場 記念館 地階ホール
- テーマ 「象徴の設計」の歴史的背景
- 講師 植山渚氏(元九州国際大学附属高校教諭)

● 生誕祭

12月12日(金) 参加者51名

記念館 企画展示室

松本清張の105回目の誕生日を友の会会員でお祝いする「生誕祭」が開催されました。最初にケーキへのローソク点灯などがあり、誕生会らしい和やかな雰囲気の中で始まりました。

今年は、地元北九州市の劇団青春座・井生定巳代表をお招きし、清張の思い出話などを語っていただいた後、劇団員の井上智之氏に「無宿人別帳 左の腕」を朗読していただきました。臨場感と迫力が伝わる朗読により、会場内に作品の世界が広がりました。



● 友の会会員 更新のお知らせと新規会員募集 ●

松本清張記念館友の会は8月1日～翌年7月31日を1年度として、文学散歩や清張サロン、講演会、生誕祭、「友の会だより」の発行、記念館に関する情報提供など多彩な事業を展開しています。

年会費は3,000円です。皆様のご入会を心よりお待ちしています。

友の会入会のお申し込みは、松本清張記念館友の会事務局まで

TEL. 093-582-2761

平成27年度
中学生・高校生

読書感想文 コンクール

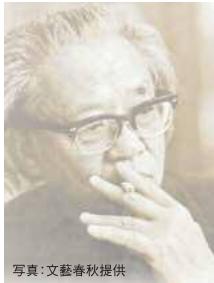


写真:文藝春秋提供

清張作品の読書感想文を、中学生・高校生を対象に募集します。

若年層に、より多くの作品に親しんで欲しい、表現力を学び豊かな心を身に付けてもらいたいという願いから、このコンクールは始まりました。そして、これからを担う若者たちに、探求の人・松本清張の精神を伝えていくことができれば幸いです。

■応募対象 全国の中学生・高校生

■課題図書 中学生・高校生ともに下記から一作品

「球形の荒野」(『球形の荒野』上・下 文春文庫)

「遠い接近」(『遠い接近』文春文庫)

「共犯者」(『共犯者』光文社文庫、『共犯者』新潮文庫)

「西郷札」(『西郷札』光文社文庫、『西郷札』新潮文庫、

『宮部みゆき責任編集 松本清張傑作短篇コレクション』下 文春文庫)

■応募方法

○中学生、高校生ともに1200～2000字程度の読書感想文を書き、応募用紙に添えて提出してください。

○手書き、ワープロどちらでも結構です。ただし、全体の字数が分かるように応募用紙に1行の字数×行数を記入してください。

○原稿は自作で未発表のものに限ります。なお、応募原稿はお返しいたしませんので、必要な人はコピーをおとりください。

■応募締切 平成27年10月31日(土) ※当日消印有効

■応募先 松本清張記念館 感想文コンクール係

※応募用紙は記念館HPからダウンロードできます。

■選考者 松本清張記念館内の選考委員会により選考します。

■発表

最優秀賞、優秀賞の受賞者には、12月下旬頃、本人と学校に通知し表彰式を行います。なお、入選の結果は、当館発行の「館報」で発表します。その場合、著作権は松本清張記念館に帰属します。

■賞品 (受賞人数等、変更の場合もあります。)

○最優秀賞(1名)

『モンブラン』万年筆「マイスター・シュテュックNo.149」

○優秀賞(中学の部…1名)(高校の部…1名) 文具など(未定)

○佳作(中学の部…3名)(高校の部…3名) 図書カード 他

※なお、最優秀賞は中学の部、高校の部で各一回ずつの受賞と限らせていただきます。最優秀賞受賞後の応募も歓迎します。過去の受賞者からの応募作品が賞に該当する場合は<特別賞>として「館報」掲載を予定しています。

●協力 モンブランジャパン



イラスト:山藤 章二

編集・発行

松本清張記念館

〒803-0813

北九州市小倉北区城内2番3号

TEL 093(582)2761

FAX 093(562)2303

<http://www.kid.ne.jp/seicho>

制作 (株)エディックス

- 開館時間 午前9:30～午後6:00(入館は午後5:30まで)
- 休館日 年末(12月29日～12月31日)
- 観覧料 一般／500円(400円) 中・高生／300円(240円)
小学生／200円(160円) ()は30人以上の団体
- アクセス JR: 小倉駅から徒歩15分 西小倉駅から徒歩5分
小倉駅からはバスをご利用いただくと便利です(小倉城・松本清張記念館前下車)
車: 北九州都市高速、大手町ランプより5分

平成26年度・ドラマ化された清張作品

「時間の習俗」、「霧の旗」は北九州市内でロケが行われました。「死の発送」は初映像化、「草」は54年ぶりのドラマ化でした。

27年度も、清張原作ドラマの放送が予定されています。新聞テレビ欄等のチェックをお忘れなく。



〈放送日〉	〈原作名〉	〈主な出演者〉	〈制作局〉
26.4.10(木)	「時間の習俗」	内野 聖陽	フジテレビ
26.5.30(金)	「死の発送」	向井 理	フジテレビ
26.7.2(水)	「強き蟻」	米倉 涼子	テレビ東京
26.12.6(土)	「坂道の家」	尾野 真千子	テレビ朝日
26.12.7(日)	「霧の旗」	堀北 真希	テレビ朝日
27.3.25(水)	「草(黒い画集)」	村上 弘明	テレビ東京

出前講演に行ってきました!

市民アカデミー「もじ・元気塾」10周年記念講演

開催日 2月19日(木)

場所 市立門司生涯学習センター

演題 「松本清張が描いた北九州
『時間の習俗』—ミステリーの旅」

参加者 一般の方 約50名



講師を当館の中川学芸担当主任が務めました。会場は「時間の習俗」の舞台となり、清張の文学碑が建つ和布刈(めかり)神社の程近く。奇しくも当日未明には、作品にも描かれた年一度の和布刈神事が行われていました。関門海峡の風吹きすさぶ門司港で清張を熱く語りました。

●編集後記●

13回目となる読書感想文コンクール。応募総数は史上最多となりました。届いた原稿用紙から立ち昇ってきたのは、描かれた時代と異なる〈今〉を生きる中高生が、作品と精一杯向き合った姿でした。読書を機に家族や友人との会話を弾んでいるようです。瑞々しさに圧倒されつつ、世代を超えたコミュニケーションの糸口となりうる作品の力を改めて感じました。

季節は巡り、周辺の桜が見ごろを迎えていました。お花見がてら、記念館へも是非お立ち寄りください。

(N.K.)

